



2021.11.15  
15:30

MA2021 Department of Architecture  
Meijo University Yearbook 2021

名城大学建築学科・大学院建築学専攻  
優秀作品集 2021

# MA2021 Department of Architecture Meijo University Yearbook 2021

名城大学建築学科・大学院建築学専攻  
優秀作品集 2021

## ←CONTENTS | 目次

名城大学建築学科・大学院建築学専攻  
優秀論文・作品集

Department of Architecture  
Meijo University Yearbook 2021

[発行]

2022年3月14日 初版発行

[発行元]

名城大学工学部建築学科

〒468-0052

愛知県名古屋市天白区塩釜口1-501

名城大学工学部建築学科

052-832-1151

<http://wwwra.meijo-u.ac.jp>

[編集]

デザイン | 天野春果

全体構成 | 山田侑希

課題全般 | 原和希

巻頭企画 | 佐藤布武

[監修]

佐藤布武

[印刷・製本]

株式会社グラフィック

本書の無断転載、複製、複写の一切を禁ず

Printed in Japan

Copyright ©Meijo University

# Diploma Projects

## 卒業設計

077 最優秀賞 — 「芽吹くじぶき」 — 伊吹山石灰石鉱山における自然回復建築 — 杉本竜也

076 優秀賞 — 「いきものうつわ」 — グレーの街から共生へ、育んでつくる未来 — 服部琴音

075 優秀賞 — 「葡萄で繋ぐまちの風景」 — 生産緑地から人の居場所への変換 — 伊藤真央

074 アーキテクト賞 — 「4代目の佐野家」 — 既存住宅の分解と再構築による材継ぎ — 佐野朱友那

073 3 — 4 都心複合施設

市原大輝 — 小西翼 — 佐村拓海 — 伊藤葵 — 神谷尚輝 — 西本帆乃加

種田季林 — 草野しおり — 高橋佑奈 — 大嶋唯花 — 中原萌々子 — 橋本莉奈

3 — 3 エリアリノベーション

種田季林 — 牛田結理 — 羽場駿也 — 高橋佑奈

3 — 2 体験・滞在型余暇活動施設

内田翔太 — 神谷尚輝 — 西本帆乃加 — 松井宏樹

3 — 1 小学校

種田季林 — 高橋佑奈 — 羽場駿也 — 前津玲奈

## 課題優秀作品

3年生課題

061 2 — 4 集合住宅

今井駿貴 — 石川翔希 — 白石光 — 都築萌 — 松野尾航生 — 和田侑也

2 — 3 住宅

伊藤結愛 — 岡田萌々花 — 白石光 — 田中めい — 林亨祐 — 和田侑也

2 — 2 交流施設

今井駿貴 — 石川翔希 — 白石光 — 滝沢伊吹 — 林亨祐 — 和田侑也

2 — 1 自室

阿部航 — 大野聡汰 — 高木柊 — 塚本莉子 — 服部文菜 — 和田侑也

2年生課題

# 芽吹くいぶき ～伊吹山石灰石鉱山における自然回復建築～

杉本竜也



## 01. Background 採掘により空白地となった山



多くの石灰石鉱山では鉱脈が地表にあるため、露天掘りという手法で山を階段状に削り取る。そのため、採掘区域では表土や植生が全損してしまい、岩盤が剥き出しとなる。その結果、**その土地に根付いていた種々様々な動植物による循環が失われ**、客土しても緑化を行うことが困難となる。

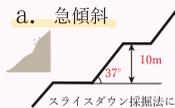
## 02. Suggestion 提案 建築による緑化



建築を建てるという行為が自然を破壊するのではなく、その土地の自然を回復し活性化する「**環境のための建築**」「**地球の一部としての建築**」を目指す。

## 03. Design Subject 設計対象 厳しい自然環境

露天掘り鉱山の一般的な環境



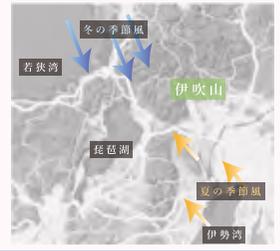
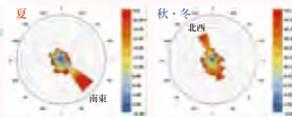
露天掘りによって階段状に掘られた岩盤に対して、**37度の傾斜角**で客土されている。  
▶ **木の根が張る土壌の厚みが確保できない**

b. 石灰岩質の土壌



石灰岩は細かな亀裂が入りやすく、非常に水はけがよい。また、石灰岩を基岩とする土壌は、カルシウム過多の**強塩基性**となる。  
▶ **保水力に欠けるため、乾燥しがち**  
**植物の生育に必要な窒素やリンが不足（貧栄養）**

伊吹山の特異な環境



伊勢湾と若狭湾に挟まれ、周囲に高い山が他に存在しないことで、**季節風が集中する風の通り道**となっている。  
敷地の高度での**風速は地上の2倍程度**で、平均8~10m/sの風が吹き荒れ、台風並みの15m/s以上の風が吹く日も多い。  
▶ **苗木をなぎ倒してしまう**

## 04. Design 設計 環境を整える自然回復建築



# いきものうつわ -グレーの街から共生へ、育んでつくる未来-

服部 琴音

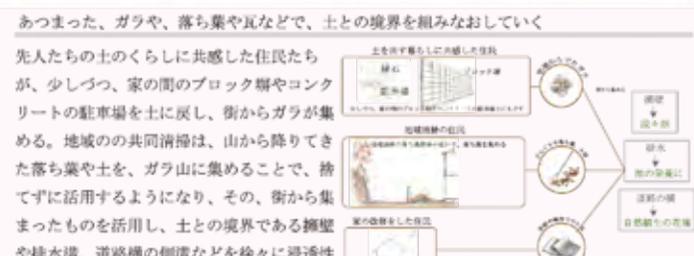


**問い**

郊外にある分譲住宅地は、もともと山や林だったところを切り開き、つくられた。しかし、そこは、道路や擁壁、建物が、土にフタをし、住民が大地とふれあう生活ではなくなった。「グレーの街」である。私は、このグレーの街が、次の世代の子どもたちにとって良好な郊外住宅地として、多様な生き物の住まう「生きた場所」となる未来を考えたい。

**提案・目的**

人は土から離れては生きていけない。自然を「制御」ではなく、受け入れ、育てていく関係をつくることで、この街に愛着を生むと考える。街のコンクリート(ガラ)を集め、少しずつ、街の周囲を擁壁から段々畑にしていく。そうすることで、「水と空気が浸透し、生物と共に暮らす循環がうまれる街」を目指す。



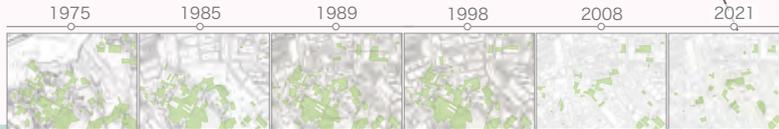
# 葡萄で繋ぐまちの風景-生産緑地から人の居場所への変換-

伊藤真央



地元である緑区八ツ松地区はブドウ園の姿がまちの風景として馴染んでいる様子が当たり前だったが、宅地開発によって、そんな風景も失われつつある。地域の中で、耕作放棄された生産緑地4箇所にブドウを栽培すること、人が利用することの両者が共存するような、単管パイプでできたブドウ棚と木造住宅が噛み合う建築を配置することで、生産者と消費者が直接の向き合い、ブドウを媒体とした人の繋がりを増やしていくことを目指す。

## ▽宅地開発によって減少する農地



## ▽まちの断面図



### ▽ Site1 住宅+直売所



### ▽ Site2 住宅+加工場



### ▽ Site3 住宅+シェア農園

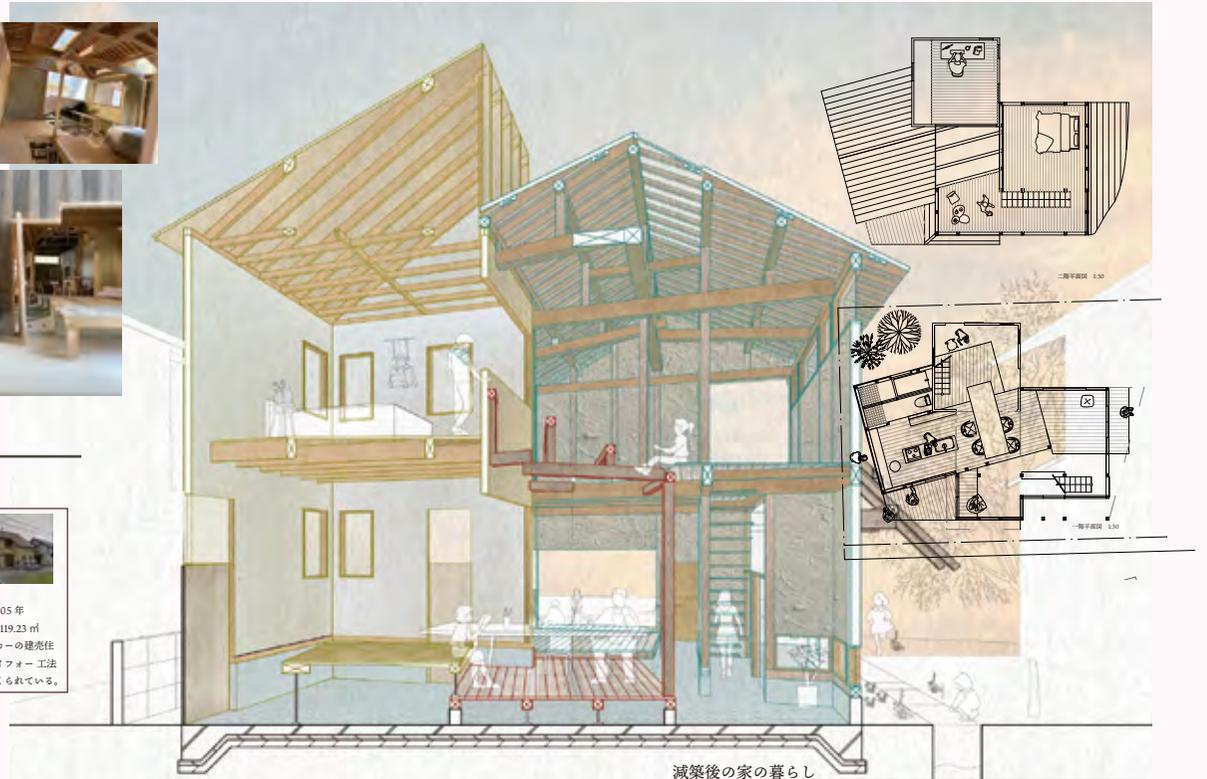


### ▽ Site4 住宅+子供食堂



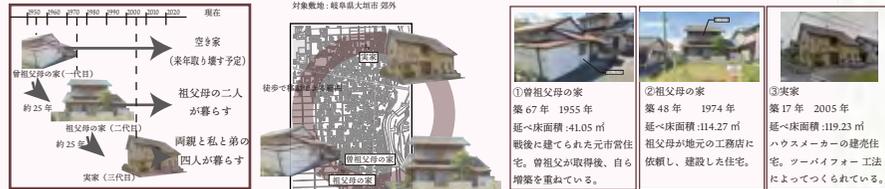
# 四代目の佐野家-既存住宅の分解と再構築による材継ぎ-

## 佐野朱友那



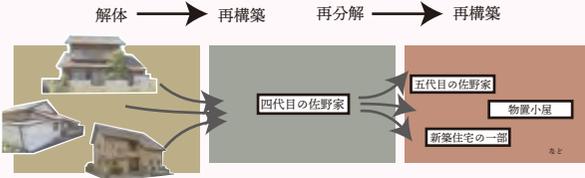
### 佐野家三世代3つの家

本提案では、私の家族である佐野家の三世代3つの家を対象の既存住宅とする。



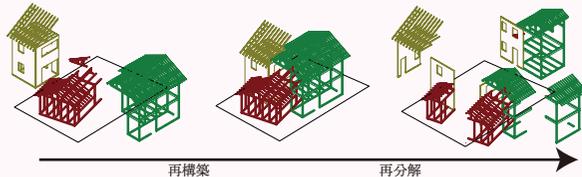
佐野家では、曾祖母の代から、おおよそ25年のスパンで次の世代が新たに家を手に入れ暮らしてきた。しかし、現在曾祖母の家が空き家となり取り壊されることが決定するなど、これまでの過剰な住宅取得による問題に直面している。

### 四代目の佐野家による分解と再構築の材継ぎ

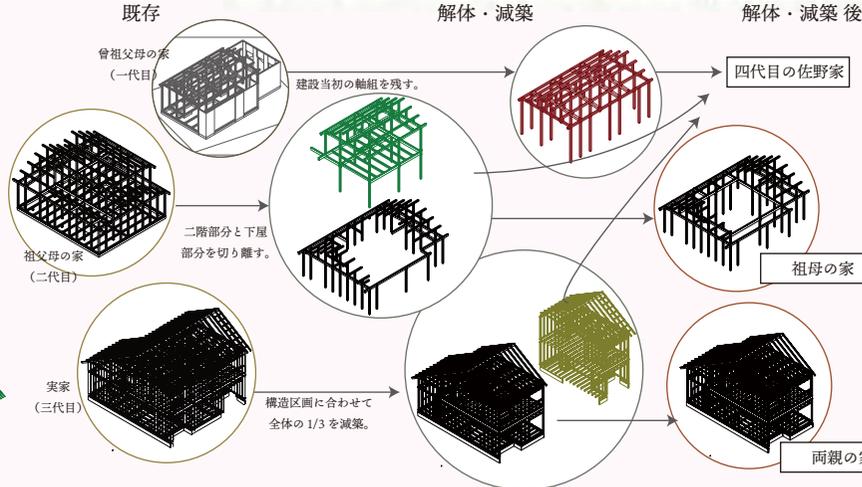


本提案では、佐野家三世代の3つの家を分解・再構築し、四代目の佐野家をつくることを提案する。そして、四代目の佐野家もまた再分解し別の場所で再構築することで、次の世代や他の住宅の一部へと派生していく、解体と再構築のサイクルをつくることを目指す。

### 再分解のための再構築



### 解体から再構築まで

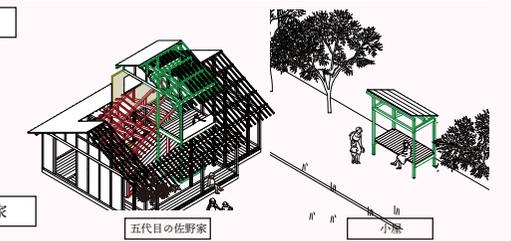


### 減築後の家の暮らし

減築を行った祖母の家と両親の家は老後に一世代で住むには大きすぎる家の一部が減ることで、敷地内に余白が増え、生活が外へと近づいていく。



### 再分解からの派生



# 都心複合施設 - 学部三年 後期第二課題 -

担当教員：生田京子・谷田真・久保久志・橋本健史

## 到達目標

本計画では、まちの顔となる都心複合施設を提案する。平日のオフィスへ勤務する人々への姿、土日の商業施設利用者への姿など、時間軸に着目して考えた。人・情報・モノの集まる場・発信の場づくりを目指す。

敷地は都市市街地の骨格を形成し、市民の憩いの場でもある久屋大通公園に面した街区である。まちなかに更なる賑わいを創出し、中心市街地の活性化の一助になることを望む。

## 敷地

住所 | 名古屋市東区 (一部中区)

敷地面積 | 5,000 m<sup>2</sup>程度

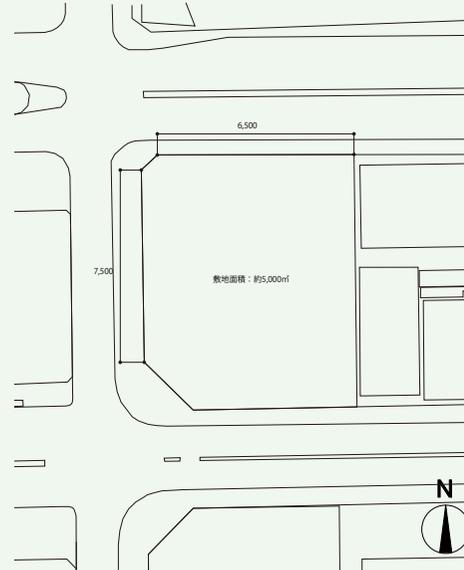
既存敷地は無く、更地であるものとして計画する。地下街等との接続にも留意する。

関連法規 | 商業地域、防火地域、  
駐車場整備地区  
建蔽率 80% 容積率 800

## 配置機能

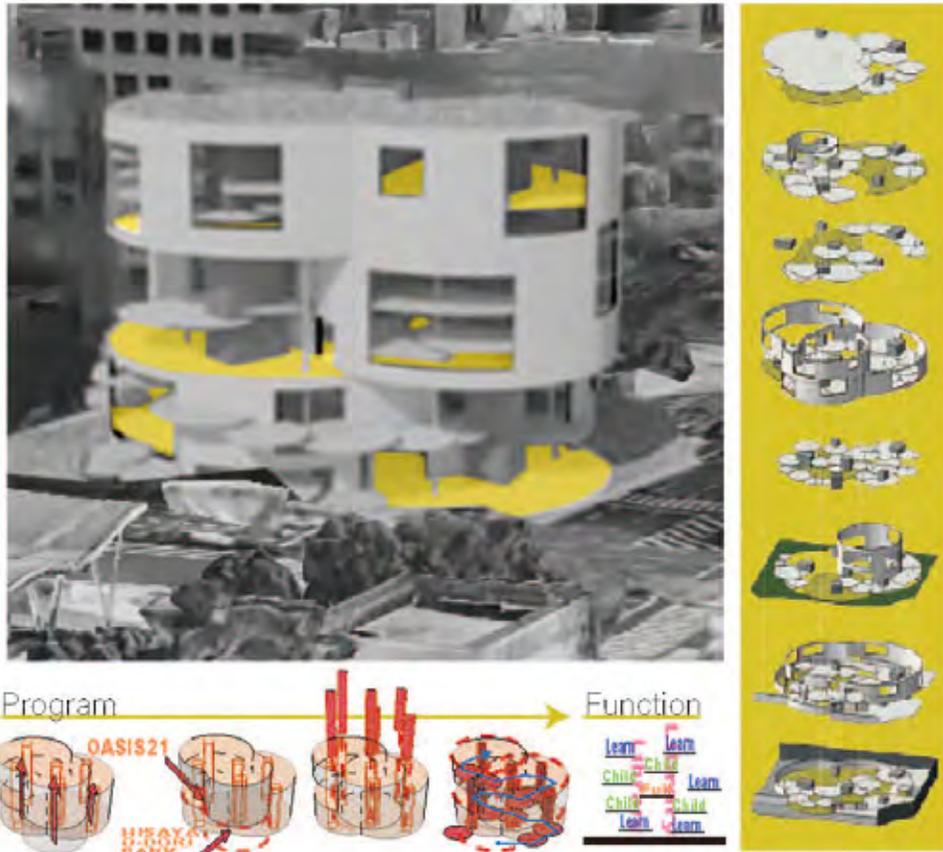
- ① 図書館部門 (約 3,000 m<sup>2</sup>)
  - ・ 開架閲覧機能 (約 1,800 m<sup>2</sup>)
  - ・ 児童図書閲覧機能 (約 700 m<sup>2</sup>)

- ・ 学習機能 (約 500 m<sup>2</sup>)
- ② 生涯学習部門 (約 2,500 m<sup>2</sup>)
  - ・ ワークショップ機能 大部屋 (約 500 m<sup>2</sup>)、小部屋 (約 600 m<sup>2</sup>)
  - ・ オープン活動機能 (約 600 m<sup>2</sup>)
  - ・ 創作活動機能 (約 800 m<sup>2</sup>)
- ③ 子育て支援部門 (約 500 m<sup>2</sup>)
  - キッズパーク機能 (約 400 m<sup>2</sup>)
  - 一時保育・子育て支援機能 (約 100 m<sup>2</sup>)
- ④ 賑わい創出部門 (約 2,000 m<sup>2</sup>)
  - ・ イベント/集会機能 (約 800 m<sup>2</sup>)
  - ・ 展示/交流機能 (約 700 m<sup>2</sup>)
  - ・ 商業/支援機能 (約 500 m<sup>2</sup>)
- ⑤ 共用部門 (面積は適宜)

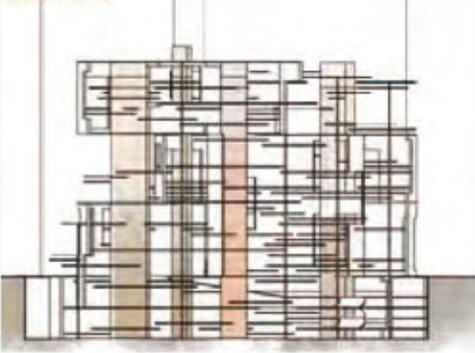


# 遠廻り

伊藤葵 神谷尚輝 西本帆乃加



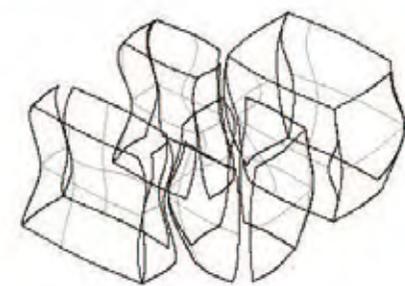
## Section



多数のスラブに多様な機能を振り分けそれを結んで動線とすることで、他人のふるまいに触れる機会を生み出す。  
他を必要としない自己完結型の集団から、他から何かを得て発達していく集団へと変化すること。それを目指す都市の姿とする。

# PAO 都市包容建築

市原大輝 小西翼 佐村拓海

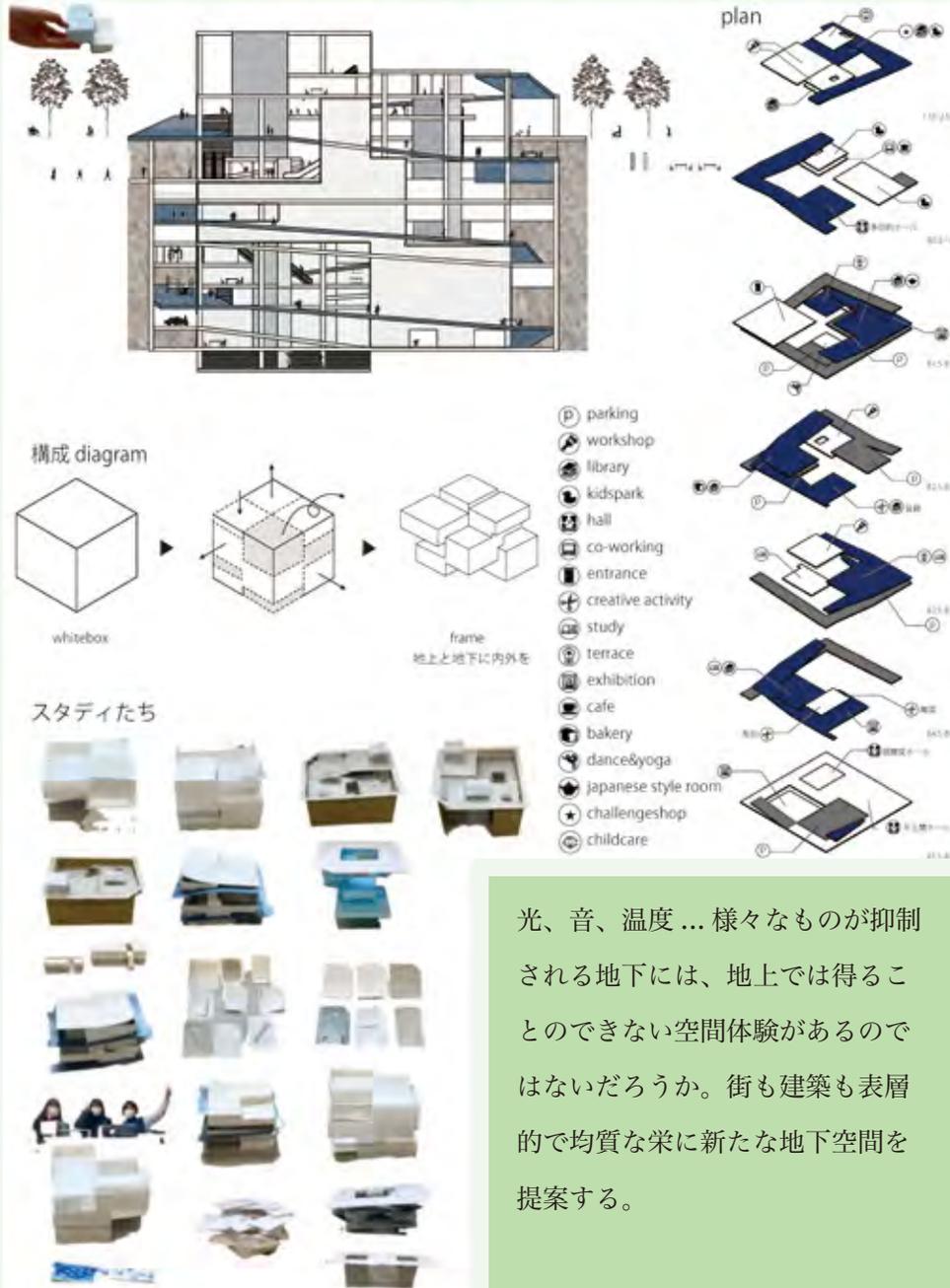


3D FREE-FORM SURFACE WALL

僕たちは、包まれたい。  
忙しい都市の様相から一步離れ、落ち着ける場所。自分の居場所を認識し、獲得する空間。都市の Landmark。多様な人や文化が混在する榮で、自分の居場所を手に入れる。都市包容建築 PAO を提案する。

# no-sub surface

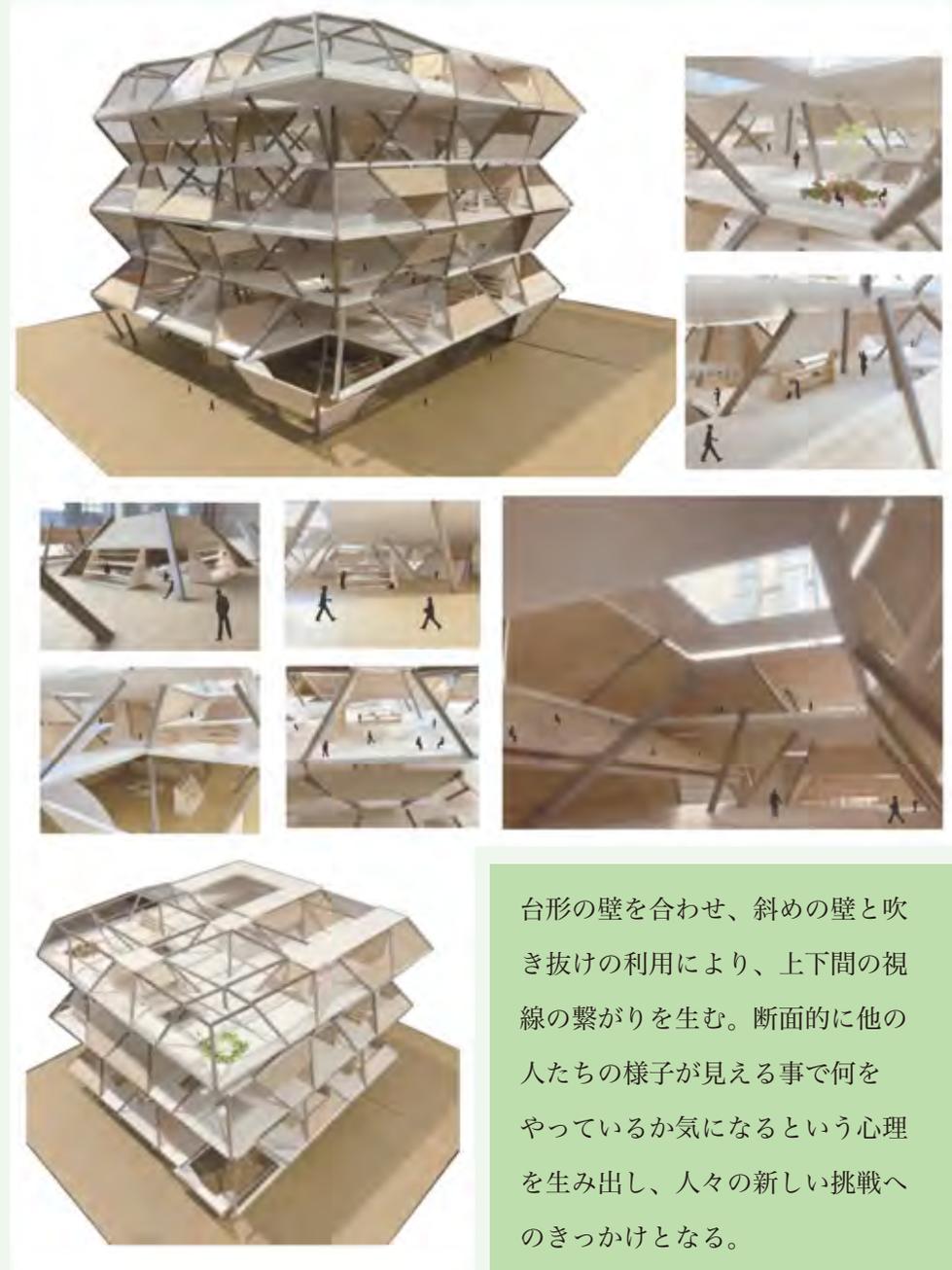
種田季林・草野しおり・高橋佑奈 (KOT architects) コトアーキテクトツ



光、音、温度... 様々なものが抑制される地下には、地上では得ることのできない空間体験があるのではないだろうか。街も建築も表層的で均質な栄に新たな地下空間を提案する。

# Random

大嶋唯花 中原萌々子 橋本莉奈



台形の壁を合わせ、斜めの壁と吹き抜けの利用により、上下間の視線の繋がりを生む。断面的に他の人たちの様子が見える事で何をやっているか気になるという心理を生み出し、人々の新しい挑戦へのきっかけとなる。

## エリアリノベーション - 学部三年 後期第一課題 -

担当教員：生田京子・谷田真・久保久志・橋本健史

### 到達目標

名古屋駅周辺では、現在、リニア開業後のまちを見据えた構想を基に整備が進められています。中でも駅西エリアは、駅西銀座商店街を軸に今でも下町情緒を残す、不思議な感覚がするエリアですが、今後は大きく風景が変わることも予想されます。

・本課題では、そんな駅西エリアを課題地とし、40人程度の人たちを一つの生活単位として考え、彼らとともにどのような住み方ができるのか、どのような相互扶助システムをつくることができるのか、といった観点で持続可能なコミュニティに資する建築を設計して下さい。

特に、エリア内に現在いる人々とどんな関わりを持って住むことが可能なのか、「住む機能」+ $\alpha$ を考え、提案して下さい。

### 敷地

所在地 | 名古屋駅西エリア (駅西銀座商店街周辺)

関連法規 | 商業地域

建蔽率80%

容積率400、500、700、

1000

### 配置機能

課題を念頭に、計画地のフィールドワークを進め、その状況を分析することにより提案につなげて下さい。

# と土間る

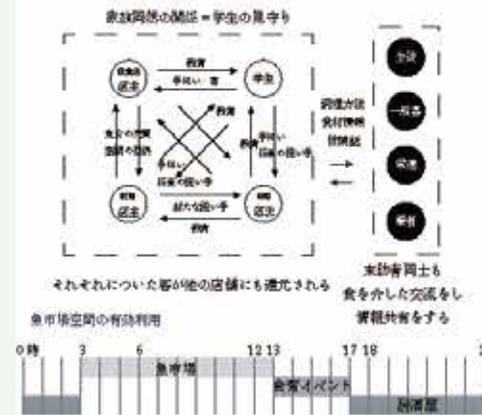
牛田結理

# 椿魚住市場

種田季林



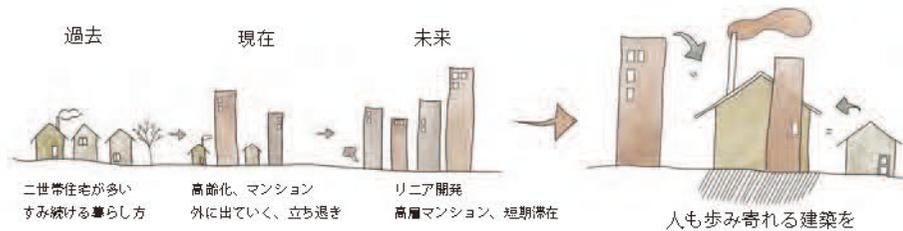
住居間や地域に開かれたところに、使い方を限定しない自由な土間を設え、住む人も近所の人も気軽にふらっと立ち寄れるようにした。まちに人がとどまる空間を提案する。「今日はどこにと土間ろう？」



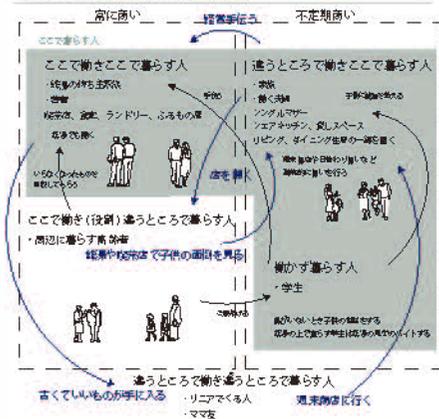
リニア開発による用地買収と市場内の高齢化が重なり閉店を余儀なくされた椿魚市場を同じ地域に再築しかつてのコミュニティを再生し、また魚市場に住むという要素を加えて新たなコミュニティを生み出すとともに市場と若年層の関わりを増やして魚市場内の担い手の若年化を進める。

# 銭湯商店

高橋佑奈



銭湯経営をもとにした暮らし



リニア開発と後継者不足によって閉業の危機にある金時湯は昔から駅西のコミュニティの場であった。金時湯を移築し昔から住む人と新しく暮らす人が銭湯の運営と小さな商いを介して暮らす未来を提案する。

# 十人十箱

羽場駿也



1 様々な形をした木箱に若者たちが住まう。

2 居住者の要望は木箱を自由に改良し、自分の色の空間に変えていく。

3 居住者の要望は共用部に溢れ出し、学生たちのコミュニティを形成する。

4 エネルギーに満ちたコミュニティは町へ開かれはるなるコミュニティへと昇華していく



中高生や予備校生、社会に出たばかりの若者たちに向けたコミュニティの乏しい駅西に若者のシェアハウスを提案する。エネルギーに満ち満ちたコミュニティはだんだんと街に開かれていき、駅西全体をパワフルに活性化していく。

# 体験・滞在型余暇活動施設 - 学部三年 前期第二課題 -

担当教員：高井宏之・生田京子・谷田真・佐藤布武

## 到達目標

本計画では、「体験・滞在」をテーマとした余暇活動施設の設計を行う。「焼物のまち」として長い歴史と文化を持つ愛知県常滑市を課題地とし、住民と来訪者との関係性を考える課題である。

課題地は、愛知県常滑市栄町のやきもの散歩道を対象とする。今回の課題に取り組むにあたり、敷地選定を各自で行う。分散配置も可能だが、全体として一つの施設として機能するための方策も計画して欲しい。既存建物を建て替えたり、改修・転用しても可。

市ではやきもの散歩道地区景観計画が策定されている。まちなみに配慮しつつ、地域の文化的資源が十分活かされ、まちや地域が活性化するような計画を望む。

## 敷地

所在地 | 愛知県常滑市栄町

やきもの散歩道 A コース

周辺街区 (約 12ha)

第一種住居地域

建蔽率 60% 容積率 200

準工業地域

建蔽率 60% 容積率 200

## 配置機能

### ①制作体験施設

・土の工房 150 m<sup>2</sup>程度 (手びねり、電動ロクロを使った陶芸作品が制作可能)

・自由工房 150 m<sup>2</sup>程度

・その他 100 m<sup>2</sup>程度 (ギャラリー、倉庫等)

### ②宿泊研修施設

・7室、定員 40人

・和室 (4人用 2室、8人用 3室)

・洋室 (4人用 2室) ・浴場あり

・ホール 150 m<sup>2</sup>程度

・研修室 20人用 2室 40×2=80 m<sup>2</sup>程度 (仕切り可能)

### ③展示施設

・ギャラリー 150 m<sup>2</sup>程度

・レストラン・カフェ 100 m<sup>2</sup>程度

・ショップ 50 m<sup>2</sup>程度

# 柱壁の織り成す散歩道

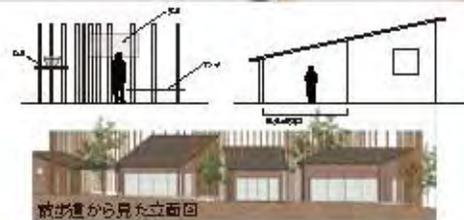
内田翔太



平面図



レストランを見る

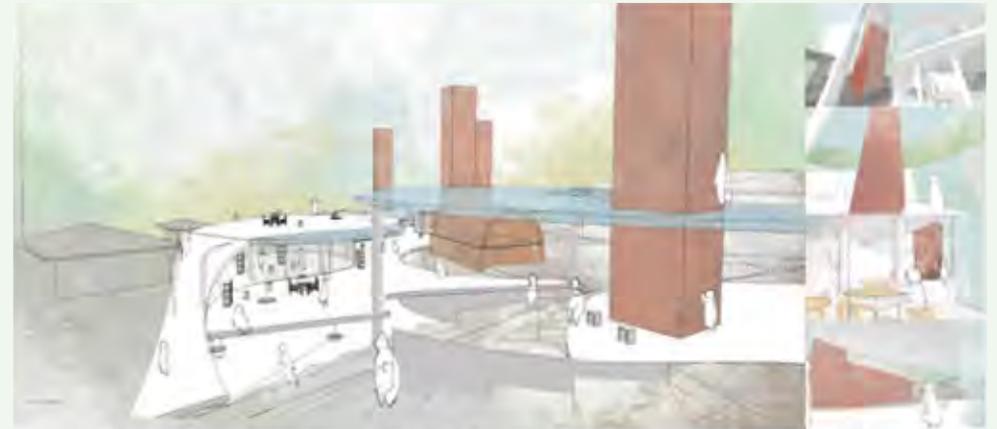


散歩道から見た立面図

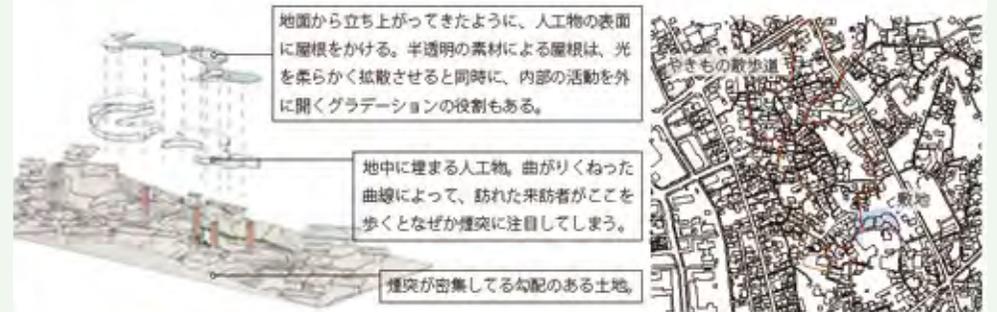
常滑にあるやきもの散歩道は動線としての働きが強く、工房やギャラリーとのつながりが弱いのではないか。そこでこの散歩道と建物の関係をとらえなおし、散歩道本来の良さを残しながらも、新たな散歩体験ができるような場を計画した。

# えんとつの町

神谷尚輝



- 01. 年々減少する煙突
- 03. 障害のない船役としての建築。
- 04. ふとした時に目がいく煙突
- 05. 日記のような煙突



地面から立ち上がってきたように、人工物の表面に屋根をかける。半透明の素材による屋根は、光を柔らかく拡散させると同時に、内部の活動を外に開くグラデーションの役割もある。

地中に埋まる人工物。曲がりくねった曲線によって、訪れた来訪者がここを歩くとなぜか煙突に注目してしまう。

煙突が密集している勾配のある土地。



施設の大部分を半地下に埋めた。地面の表面に人工物が顔をだし、その上で活動がにじみ出る。等高線にそいながら煙突と煙突、道から道をつなげることで地面から立ち現れた建築は、ふとした時に煙突に目をひかせ、主役となる煙突を引き立たせる。

# タラリズム

西本帆乃加



ホーム やまのShop



対象敷地：愛知県常滑市 焼き物散歩道 A コース周辺



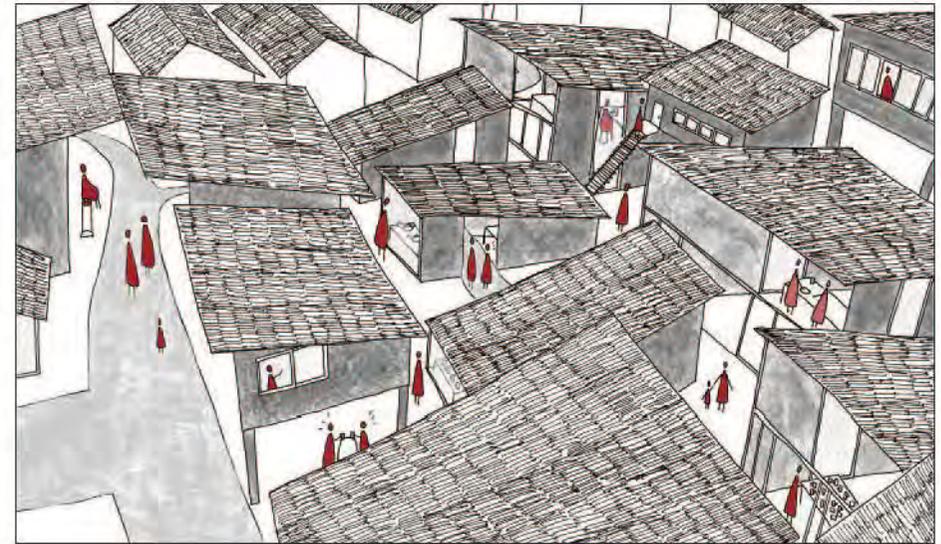
コース周辺でありながら人気はあまりない。人々は、コースを外れ、土管坂へ向かう。



空間に様々な大きさで降る『垂れ壁』と、小刻みにレベルを変える『床』。それぞれが別のリズムをとることで生まれる隙間と、空間のプライベート性を利用して、住民と来訪者の新しい繋がり方を提案します。

# 一期一会の寄道

横井実のり



視線から行動へと発展させる

カメラを構えている人がいる  
何を撮っているんだろう  
ちょっと見てみようかな

美味しそうに食べてる人がいる  
お店を探してみただけ見つからない  
どこにあるか聞いてみようかな



何に常滑の魅力を感じるかは人それぞれ。しかし常滑に魅力を感じているという共通点により、互いに興味を持ち始め、知らぬ間に顔見知りの人となる。視線だけのつながりをもった人々が関わることで思わぬ寄り道を促し、思い出深いものとなるのではないかな。

# 小学校 - 学部三年 前期第一課題 -

担当教員：高井宏之・生田京子・谷田真・佐藤布武

## 到達目標

どのような子どもを育てたいのか。本計画では、これからの小学校のあり方について考えることを期待する。

郊外住宅地の小学校の計画である。地域と積極的に関わり、地域の中で存在感があり、共に生きる喜びを分かち合える提案を想定する。また、隣接する川や歩道との関連性についても考慮する。

主に小学生を対象としている。成長期である子どもたちの発達段階の違いを認識し、五感に響く空間を考えて欲しい。学年が異なることで体格・身体能力・心理面での差は大きいことを認識し、学年を超えた多様な活動を誘発する空間についても考えて欲しい。

## 敷地

住所 | 名古屋市天白区大坪2丁目  
1601番地

法規則 | 第一種中高層住居専用地域

延床面積 | 約 8,000 m<sup>2</sup>

敷地面積 | 12,632 m<sup>2</sup> (小学校部分) 公園部分 (5,291.9 m<sup>2</sup>と一体に考えても良いが、公園としての

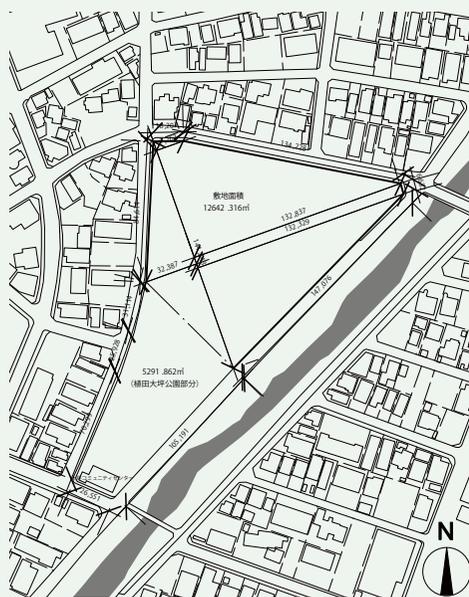
実利用面積は確保

## 配置機能

主要用途 | 小学校 (地域集会室  
小公園を積極的に複合する)

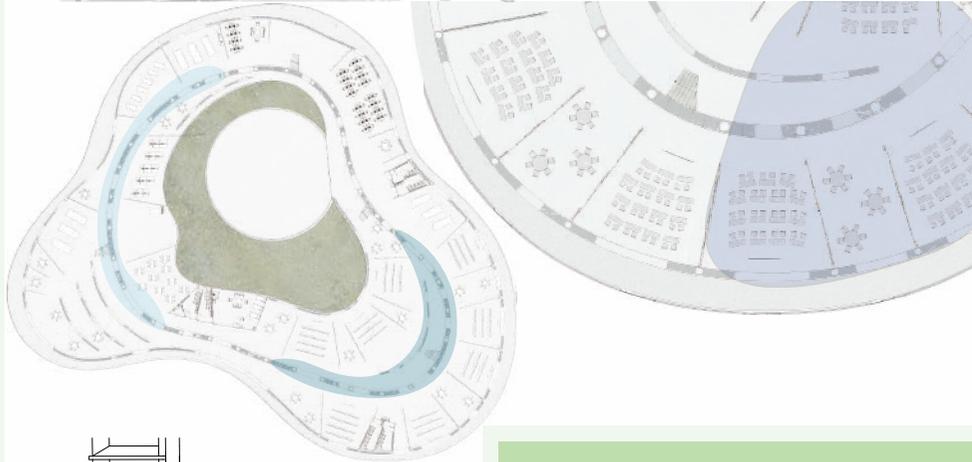
生徒数 | 380人、14クラス  
(1~2年 各3クラス・各30名、  
~6年 各2クラス・各40名)

教室 | 普通教室、特別支援教室、  
家庭科室、音楽室、メディアセン  
ター、体育館等



# 今日も棚と...

種田季林



ヒトモノコミュニケーション

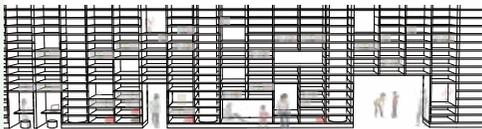
棚コミュニケーション



ヒトヒトコミュニケーション



ヒトモノヒトコミュニケーション



棚の活用

校内に一巡した2つの棚とその周りに並ぶ棚がヒトとモノとの交流の接点になり、子供たちが棚で学び、棚で遊び、棚で心を動かし成長できるような小学校を提案する。

# ひだまり小学校

高橋佑奈



風と視線が通り抜ける



高学年OSから図書館、公園を見る



校舎から公園で遊ぶ子供を見守る



公園と校庭の配置を反転し、公園にいる近所の人たちが学校の敷地内に入り込む。ひだまりを追いかけた小学生が学校の管理領域でない公園に溢れる小学校を提案する。



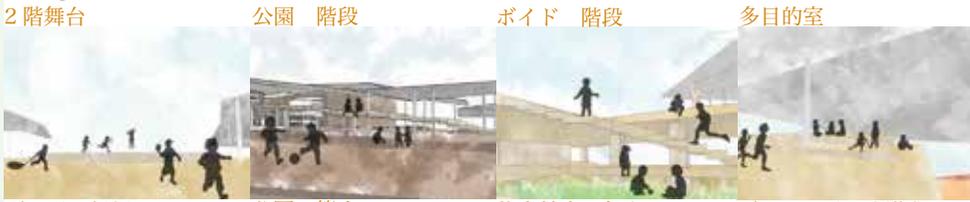
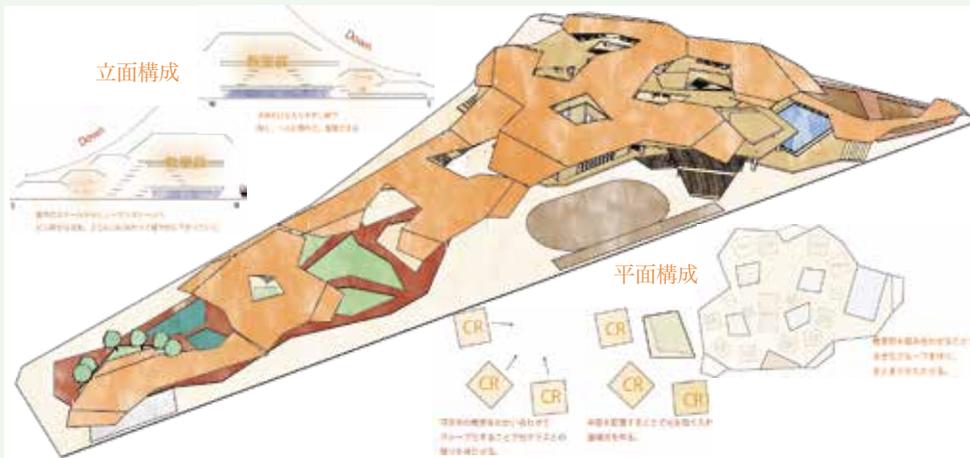
公園 学びの広場 庭 OS 教室 OS 教室

# 想創

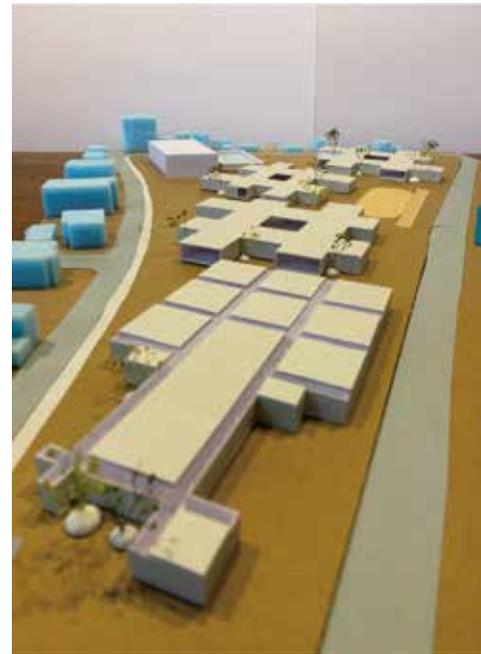
羽場 駿也

# 「自分から」の気持ちを育てる小学校

前津玲奈



小学校へ行く理由は学習ではなく  
同学年とのつながりを作ることだ  
と考える。レベル差や天井高、柱、  
通路で空間をゆるりと区切ること  
で、子供たちのつながりを生む。  
この学校には子供たち独自のルー  
ルが時々刻々と生まれる。

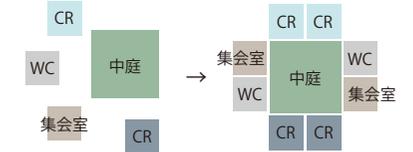


## Diagram

①自分から目的を持って行動してもらえるように  
分棟型、一通りではない動線を確保



②分棟型でも学年間の交流を失わせないために  
中庭を持つ教室ユニットを作る



「次、理科室だから早めに教室を出  
よう。」  
「あそこの角で遊ばない？」  
生きる力があるというのは、自立  
性・たくましさ・行動力があるとい  
うことだと思う。生きる力を持っ  
て成長できるように、自分で目的  
を見つけ、自然と自分から行動で  
きるような小学校を設計した。

# 商店街に立地する集合住宅 - 学部二年 後期第二課題 -

担当教員：佐藤布武・伊藤維・神谷勇机・桑原雅明・向井一規・吉村真基

## 到達目標

現代に求められている集合住宅とはどのようなものなのだろうか。これからの集合住宅のあり方を検討して欲しい。

今回は、集合住宅を形成する集会スペース・開放施設などといった諸要素が、どう商店街の再生に貢献するかを検討してもらいたい。円頓寺商店街にとどまらず、那古野のまち全体の活性化に供するような提案を求め。

- ・ 子持ちファミリー世帯  
約75㎡・3戸以上  
これに加え新たな住戸タイプを3戸程度計画しても良い
- ② 居住者のための相互交流スペース
- ③ 地域住民や学生への店舗・開放施設（約300㎡）
- ④ 駐車場・駐輪場 | 駐車場：10台以上 駐輪場：10台以上

## 敷地

住所 | 愛知県名古屋市西区那古野  
1丁目

敷地面積 | 約880㎡

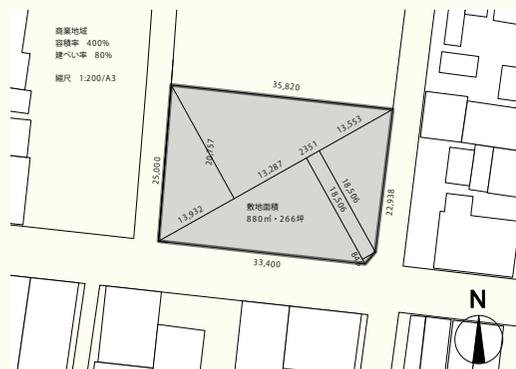
用途地域 | 商業地域

建蔽率80% 容積率400%

## 配置機能

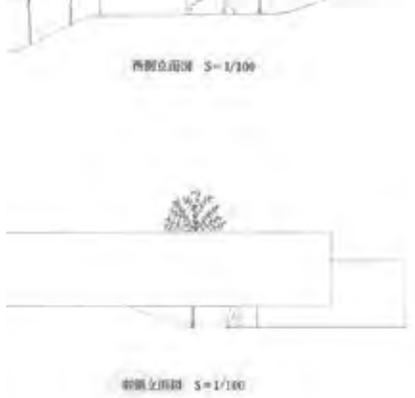
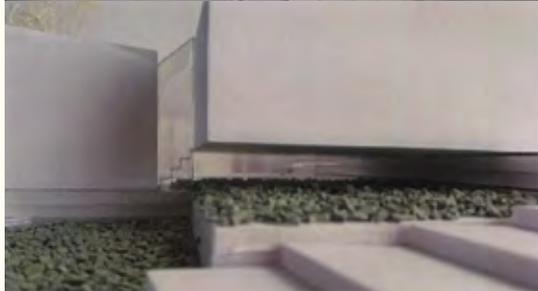
全体で1,500㎡から2,000平方メートルを計画し、以下の機能を入れること

- ① 賃貸集合住宅12戸-15戸
  - ・ SOHO向け住宅/80㎡・3戸以上
  - ・ 集合住宅内に店舗を営む世帯  
約70㎡・3戸以上
- 地域活動に従事する高齢者世帯  
約40㎡・3戸以上



# A sense of distance

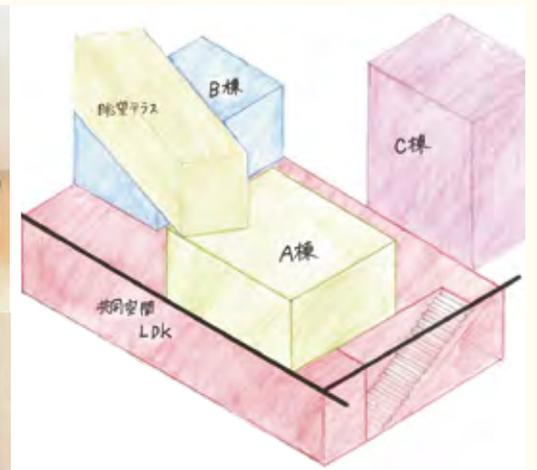
伊藤 結愛



土地の高低差により建物と地面の間に生じる僅かな隙間に着目した。この隙間が内部で生活する者の気配を外部へ伝える役割を果たすことにより、プライバシーを充分に守りつつ、近隣住民と程よい距離を保ちながら生活出来る住宅を提案する。

# 集まって暮らす家

岡田 萌々花



今から 15 年後には 2 人以下の世帯が過半数を超え、個人化、ソロ社会化が進むと考えられている。そこで 2 階部分に賃貸、1 階部分に LDK 機能を持つ共同スペースを作り、2 人以下の世帯の人々が他者と協力しながら暮らす家を設計した。

## 音楽と交流の家

白石光



邸宅の中に音楽スタジオを設置し、スタジオ利用やイベントを介して地域の人々と広く関われる建築を設計した。主室は①通常時にリビング兼スタジオ利用者のミーティングルームとして、②イベント時にステージとして利用されることを考えている。

## 地形と路地の家

田中 めい



この家は、地形に寄り添う形状でスキップフロアとなっており、五つの長方形のブロックがずれながら南北に並んでいます。高い壁で構成される長方形のブロックや、それが重なることによりできた空間により、路地のようで楽しい雰囲気をつくりました。

# 暮らしと対話する家

林 亨祐



住人が介入できる余地を残し、暮らしに自由度をもたらす。「住人が望む暮らし」と「可変性のある家」が『対話』しながら変化していく家を提案する。さあ、家というキャンバスに暮らしを描いていこう。

# Sky house

和田侑也



建築は人生をデザインする媒体と考える。いろいろな人に見て（目標を待って）進んでほしい。そこでコンセプトを空とした。また、仕事場と家族の領域を適度に混在することで家族の広がり仕事場に現れる空間造りをしている。

## 自邸 - 学部二年 後期第一課題 -

担当教員：佐藤布武・伊藤維・神谷勇机・桑原雅明・向井一規・吉村真基

### 到達目標

”将来の自分の家”について、考え、提案してください。

「1. 敷地」についてよく検討し、「2. 建築家としての自邸」を、「3. 発表」してください。

### 敷地

敷地のポテンシャルを最大限に引き出す建築のを考えてください。

2. 建築家としての自邸 |

これからの「家」とはどうあるべきなのか、想像してください。

3. 発表 | 建築作品を通して、未来に向けたメッセージを。

一つの建築作品から、新しい時代の考え方や快適性など何らかの提言をし、多くの人の心に響かせるにはどうしたらいいのか。その可能性を育ててください。

皆さんは、新しい空間の発明家です。自分が作り出した空間の素晴らしさを冗長に語り、そんな新しい空間の作り方が、社会に派生していく。その結果、未来が今よりも楽しくなっていく。

そんな作品を作ってください。

住所 | 愛知県名古屋市天白区八幡山

用途地域 | 第1種低層住居専用地域

敷地面積：388㎡

建蔽率80% 容積率400%

### 配置機能

・建物規模

延床面積：150㎡以上

階数：自由

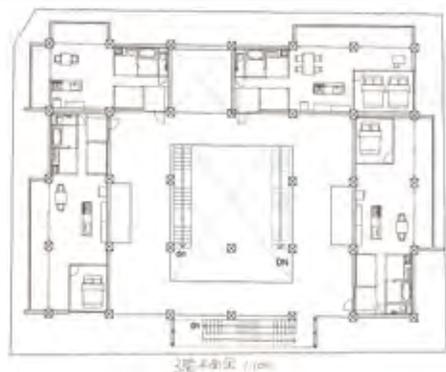
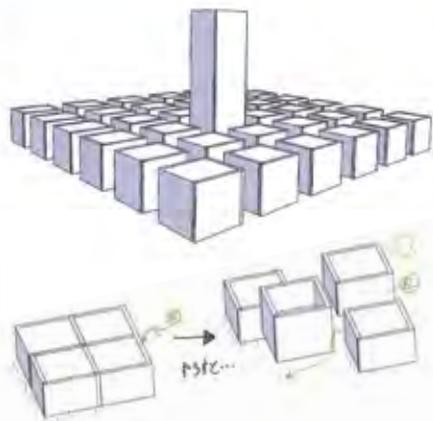
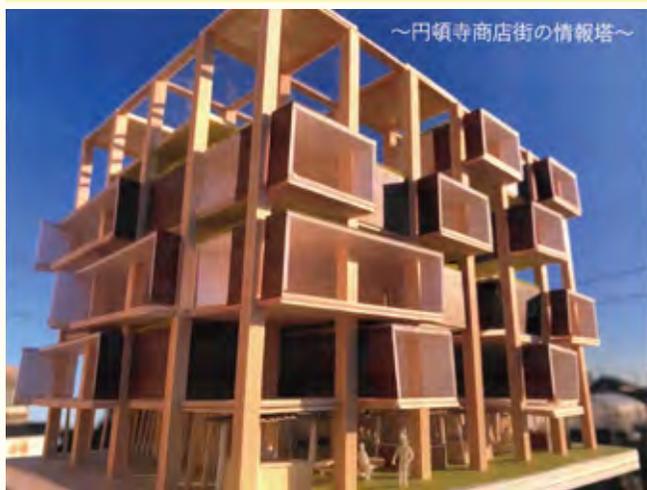
・構造

構造形式を十分に検討すること。



# 円頓寺商店街の情報塔

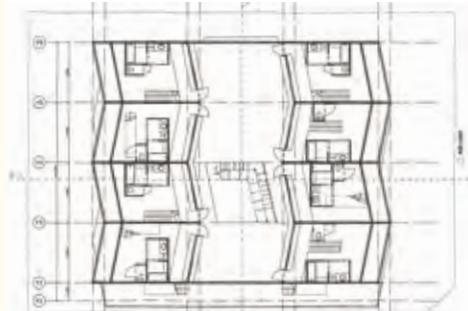
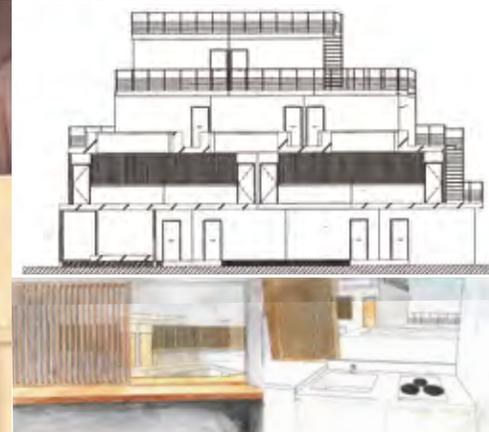
今井駿貴



集合住宅に廃れてしまった商店街にリノベーションの機会を与えられるような仮設のお店を6つ設けた。また SOHO にも商店街の情報を発信していく人を住まわせ、嘗ての活気を取り戻すコンセプトとした。23m の高さを持たせることで商店街のシンボル、情報塔のようになるようにした。

# 土間風景

石川翔希



フロアごとに異なる土間を設け、住戸は二階建てにすることで、一つの住戸に二つの異なる土間が存在する。一階には通り土間、2階では土間をオフィスとして活用できるようにし、3階では農家を中心とした土間となっている。

# 暮らしを助け合う

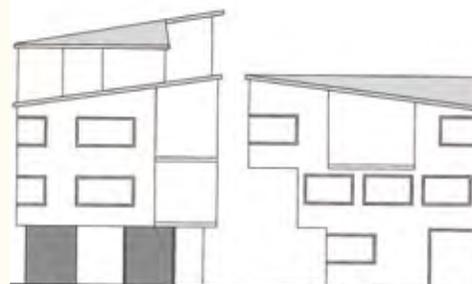
白石光



部屋の中で完結する従来の暮らしに対して、開放的で他の住民とつながるような集合住宅での暮らしを提案する。1世帯分の住戸を分室し、その間にセミパブリックスペースを通すことで集合住宅を基としたコミュニティの形成を促す。

# COREを囲む

都築萌



西立面図 1:150

集合住宅内の共有スペースという大きなコアや、各居住にも中心にコアをつくることで、人が自然とコアに集まるようになっており、商店街を訪れる人や、そこに住む人がコアを介して楽しい時間を過ごし交流を図ることができるようになっている。

## ゆるむすび

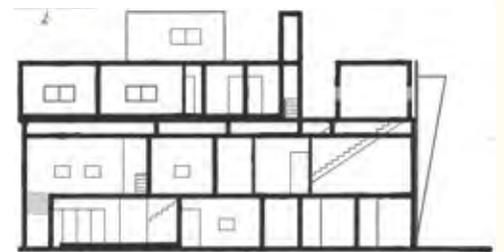
松野尾航生



複数の不揃いで小さな個体から曖昧な全体性を生成する構造。外観の柔らかさや、地下による堀川を利用した水の存在が今までの円頓寺にない新たな魅力となり、人々を引き寄せると同時に商店街の活性化を目的としている。

## 交わり

和田侑也



「地域交流の維持向上」と「古い建物と現代の建物の交わり」をコンセプトとした建築である。東側には四家道を連続させる伝統的な町屋建築、北側には現代建築、中間領域として商店街に面する南側にそれぞれの性質が合わさった空間があり、町の問題定義をしている。

## 成長する空間・場 - 学部二年 前期第二課題 -

担当教員：生田京子・大前貴裕・佐々木勝敏・納村信之・三谷裕樹・向井一規

### 課題内容

本課題では塩釜口駅付近の、街の新しい顔となる建物をデザインしてほしい。

敷地は、塩釜口駅の出入口に接する。塩釜口駅付近は、様々な店や駐車場が混在し、賑わいがある一方で、統一感もなく、どこか街の個性を感じづらいエリアとなっている。

この街に、学生と地域の人が共に使用し交流する空間を構想し、新たに街を活性化させるような建築を考えて欲しい。

タイトルは「成長する空間・場」となっている。このタイトルは以下のいずれととらえても構わない。・学生と地域の人が交流し、成長するための場・空間や場そのものが、時間経過によって変化・成長する。

### 敷地

住所 | 名古屋市天白区塩釜口2丁目

建築面積 | 303 m<sup>2</sup>

用途地域 | 近隣商業地域

建蔽率 80% 容積率 400

### 配置機能

建物は 24 時間オープンを前提とする。面積は、各自で自由に設定する。下記の 1-4 の機能を必ず設け、更に、下記にない機能も、自由に付け加えても構わない。

- 1 カフェ（軽食の提供・学生自身が使える簡易キッチンなど。）
- 2 学生や地域住民のサークル活動などに使えるレンタル室（会議用など。）
- 3 学生や地域住民の展示ギャラリー
- 4 学生用の制作スペース（建築学科の学生も使用!）



## 回廊～人々が行き交う～

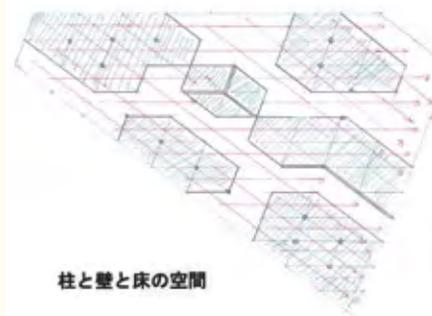
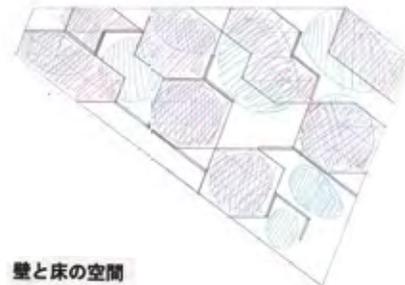
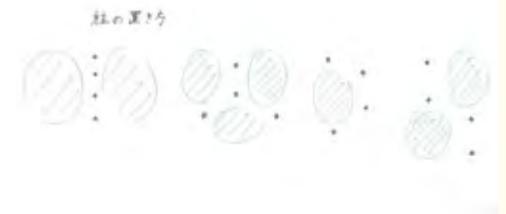
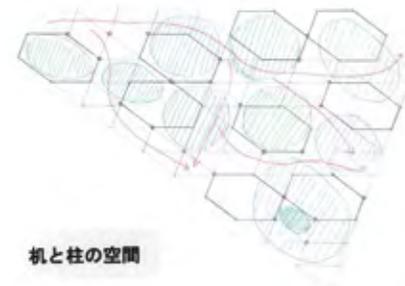
今井駿貴



塩釜口は高層のアパートが立ち並び、ガラス張りの建物も無く圧迫感を感じる街となっている。そこで格子状の躯体でガラス張りにし、さらにシンボルとなるように25mの高さを持たせた。回廊にはカウンター、ベンチ、ギャラリーを設け、出会った人と交流が生まれる空間を作った。

## 見て学ぶ空間

石川翔希



全てのフロアを同じグリッドで区切り、そこに壁や柱、床を設けた。この三つの要素の組み換え方により視線の通り方や人の動線が変化する。そして、ガラスを多く使うことにより多くの視線が通るようになる。

## 多様性を生む六角柱

白石光



多種多様な人が空間を共有することで、建築が地域住民にとって「成長する場」になると考え、六角形のスラブを組み合わせた公共施設を設計した。スラブは1mの段差でつながり、用途によって空間を大きく/小さく使えるような可変性を意識した。

## 壁のキャンバスとハコ

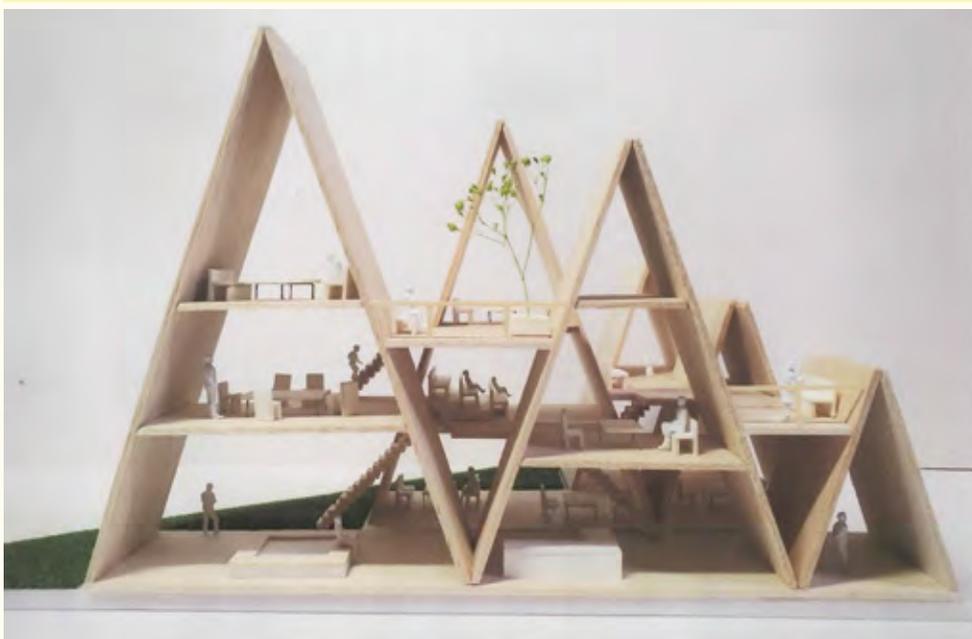
滝沢伊吹



落書きをすれば怒られる。しかしこの壁は誰がいつ何を描いてもいい完成することのないキャンバス。自分も描き加えてみようか、隙間から見える向こうには何があるのか、思わず近付きたくなるそんな空間を設計した。

## そして繋がる

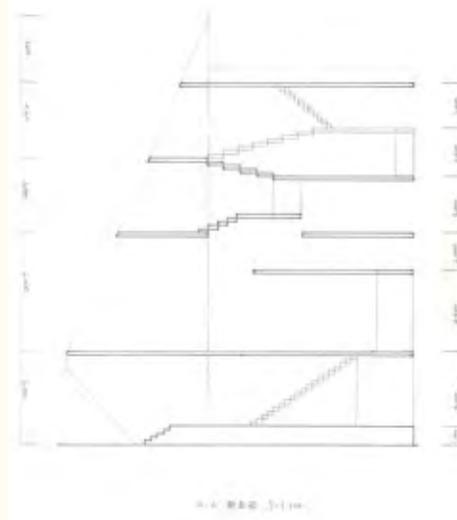
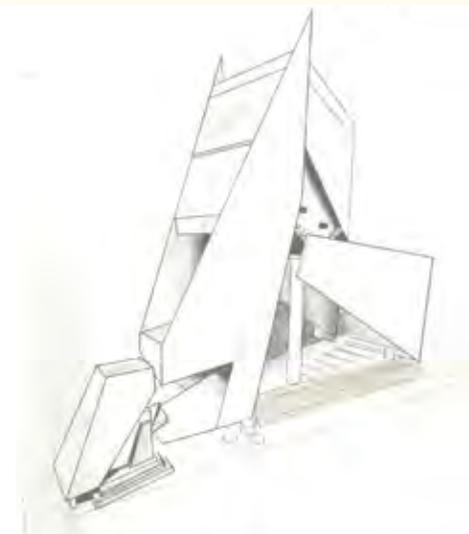
林亨祐



二等辺三角形を一つのボリュームとし、それらを一部重ねることで、空間同士に接点を持たせる。そこから交わる視線や空気感によって、他人と接する『きっかけ』を生み出していく。

## 3face

和田侑也



塩釜の騒がしい空間と区別、連続させる建築である。南の道路側は塩釜の騒がしい空間と区別し建築の顔となるような立面に、北側は空間をオープンして街並みを連続させるような立面になっている。内部は使う人自身によって変化するような空間づくりをしている。

# 自室の設計 - 学部二年 前期第一課題 -

担当教員：生田京子・大前貴裕・佐々木勝敏・納村信之・三谷裕樹・向井一規

## 課題内容

今回、あなたは初めての設計課題として、5m立法の自由に使用できる空間が与えられる事になった。このスペース・空間の中で、貴方の生活空間を自由に構想してほしい。近くに親がいる主屋があり、三度の食事の心配は幸いな事に、いらぬ。各自のライフスタイルや趣味などを反映した、貴方だけの「5m立法の自己の生活空間を考える。」自室の設計課題である。

## 身体感覚を養う課題として

空間設計の基礎として、自己の人体寸法や動作寸法、自己の生活空間を測り身体と模型で考える事。日頃から、心地良いと思った空間の広さ、高さ、座り心地のいい椅子の形と寸法・・・等を測る習慣を身につける事。自身のスケール感を養っておく事が大切である。

## 敷地

周辺環境や敷地形状などの想定は自由である。

例えば、静かな森の中の湖畔でも、

砂漠のオアシスの夕日を浴びる一画でも、海辺の岸壁の頂きでも、大都会のまっただ中でも、小学時代の思い出の、小さな街の分かれ道に沿った三角地でも、どこでもよい。

## 設計条件

5m立法の範囲で設計する。大きい、小さいのボリュームは認めない。はみ出た洗面コーナー等も不可。建築科の学生ゆえ、学習・製図コーナーは必須です。主屋で、すますでなく、WC、風呂も必須とする。その他は各自、自由に設定する。(たとえば、友を招き入れてのバーコーナー、趣味のスペース等。)



# cubes

高木柙

# 風景がつくる居場所

塚本莉子



座る



中に入る



机にする



横に2個繋げて寝る



縦に2個繋げて  
トイレ、シャワー室に



移動させて階段にする



5メートル立方内にたくさんの「cube」を置いた場合、自然と空間が狭まり、高気圧が生まれる。そのため、内部にいる人間同士の気持は自然とカッとなり、居る空間へと生まれ変わる。

反対に、置く「cube」の数を少なくした場合、空間が広がり、人々との距離が伸び、気持の緩へと変化する。さらに、「cube」を外側に持ち出すことにより、5メートル立方という制限から解放され、より自由で豊かから空間へ変化し、建物の印象が大きく変化する。



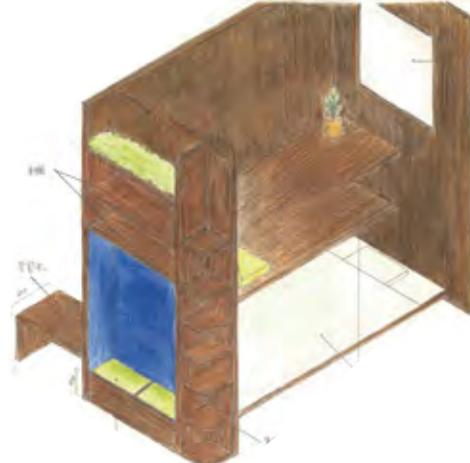
5m立方のボックスの中に1.25m立方のcubeを自由に配置する事で様々な用途に合わせた空間を生み出すことができる。cubeの使い方は人それぞれで、組み合わせたり、外に持ち出したりすることで豊かな居場所を提供している。



この家は 270 度海で囲まれた半島の先にある。過ごす目的ごとにフロアを分け、各フロアには風景が居場所をつくる空間をちりばめている。土間のテラスから眺める海、天井から不規則に降り注ぐ光、作業をする自分を包み込むような緑の景色、ここには自分を呼ぶ場所があふれている。

# 緑の中の隠れ家

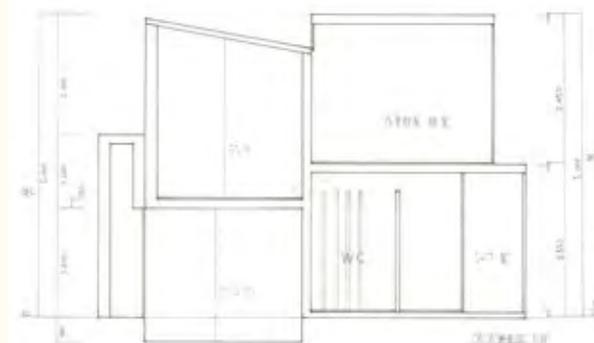
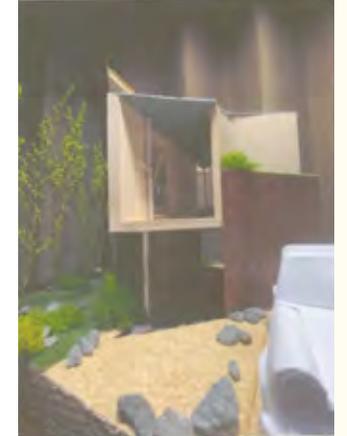
服部文菜



木々に囲まれた建物の中心に家具のような箱。箱の外側に学習スペース、和室、本棚などの役割を兼ね備えて、内側には開口部を小さくした寝室と趣味部屋。まるで隠れ家のようにくつろげる空間となっている。

# Cabin In Nature

和田侑也



山の中腹の人気のない場所に建つ建築である。テラスをはじめ室内外を連続させる空間づくりを意識し、自然と建築が一体となるような形態としている。5m立法の箱とは思わせない形にして建築に広がりを持たせている。

## 2021年の出来事（建築学科 HP の news より）

- 3月
  - 「第1回中部商業空間学生部門」にて、伊藤真央さん、大枝拓真さん、駒田名菜さんが最優秀賞を受賞
  - 中部卒業設計展 NAGOYA Archi Fesにて、山田明日香さん、渡辺拓也さんがファイナリストの選出  
坂口雄亮さん、芝山有紗さんも個人賞を受賞
  - 間瀬圭祐さんが日本建築学会東海支部学生優秀学術講演賞を受賞
- 4月
  - 入学式
  - 松田准教授が令和2年度手島精一記念研究賞(発明賞)を受賞
  - 佐藤助教らが東北建築賞において、大賞を受賞
- 6月
  - JIA東海学生卒業設計コンクールにて、坂口雄亮さんが金賞、山田明日香さんが銅賞を受賞
- 8月
  - 元建築学科教授の松井徹哉先生が日本建築学会大賞を受賞
- 10月
  - 卒業設計中間審査会の開催 / 伊藤暁さん（東洋大学）
- 11月
  - 「第9回ヒューリック学生アイディアコンペ」にて、加藤俊一さん、飯田兼都さん、一ノ瀬智之が、最優秀賞を受賞
- 12月
  - 坂本遼さんが日本地震工学会大会優秀論文賞発表賞を受賞
  - 建築家講演会の開催 / 長坂常さん（スキーマ建築計画）
  - 建築家講演会の開催 / 大島芳彦さん（ブルースタジオ）
- 2月
  - 卒業論文審査会を開催
  - 谷田研究室、武藤研究室による産学プロジェクトが大学HPに掲載
  - 卒業設計審査会及び作品展を開催

名城大学建築学科・大学院建築学専攻  
優 秀 論 文 集 2 0 2 1



